

## はじめに

当財団の主業務であります「音」の調査対象分野に関しましては、人間・動植物・物体・自然と音との関わりから音楽、騒音、超音波そして音の“響”そのものと大変幅広いものがあります。中でも超音波に焦点を絞ってみますと、それらの各分野にまたがり幅広く関係してくることがわかります。産業的にはエネルギーとして、又計測手段として多方面で既に確立した分野もございますが、この様な多様性から市民生活に直接結び付いた超音波応用も本来多岐に渡ると推察されます。しかし、その体系化された調査はなされていないのが現状であります。

本報告書はこの点に鑑み超音波と市民生活をキーワードに、双方の結び付きの現状を調査するとともに、その結果から更に都市生活をより快適なものにする音＝超音波応用の可能性、今後の展開を調査したものであります。この成果が関係各位の皆様にも幾等かでも貢献できますれば幸いと存じます。

最後に、本報告書の作成にあたりまして、調査研究に快くご協力頂きました関係機関、企業の方々、及び貴重なご助言を頂きました各位に深く謝意を表します。

平成 7 年 5 月

財団法人 サウンド技術振興財団

理事長 河 合 滋

((株)河合楽器製作所代表取締役会長)